

今日の試練でイエスの試練から学ぶこと

『イエスは仕えるものとして、ご自分を無にしました。』この聖週間をこのパウロの言葉を味わいましょう。ここでは繰り返しのようイエスが仕えるものであったことを宣べ伝えています。聖木曜日では彼は弟子の足を洗って仕えました。聖金曜日では彼は苦しみ、そして勝利の奉仕者として現れます。そして明日に向かってイザヤが彼のことを予言しています。『見よ、私の僕、私が支える者を。』

神は私たちに仕えながら私たちを救いました。一般的に私たちは私たちが神に仕えると考えます。違います。神が無償に私たちに仕えたのです。なぜなら神が私たちをまず第一に愛したからです。愛されることなしに愛することは難しいことです。そして私たちが仕えさせるがままにしないのなら、仕えるのはもっと難しいのです。

私たちのために命を与えられました。神にとって私たちは大切にとても尊い価値あるものなのです。聖アンジェル・デ・フォーリーニョはイエスから次のような言葉を聞いたと証しています。

『冗談であなたのことを愛したのではない』神の愛は私たちのためにご自分を犠牲にされるまでになられ、私たちの悪を全て引き受けられたのです。このことに啞然とします。

神は私たちの悪が彼を攻撃することを受け入れて、私たちを救ったのです。抵抗することなく、仕える者としてへりくだり、忍耐し、従順で、そして何よりも愛の力を持って。御父はイエスが仕えることを支えました。御父はイエスに襲いかかる悪を退けませんでした。しかしその苦しみを支えました。私たちの悪が善によって打ち負かされるように、イエスが愛の奥底まで最期まで通られるように。

裏切り

イエスは彼に喝采をあげていた人々から裏切られ、次に十字架につけると、叫ばれました。彼は宗教関係者から、不正にも死刑宣告を受けることで裏切られ、政治関係者からは、手を洗うことで裏切られます。

人は裏切られた時、心の底に人生にはもう意味がないような失意が生まれます。それは私たちは愛し愛されるために生まれたからです。一番苦しいのは私たちにとって忠実であり近いことを約束した人からの裏切りに合うことです。愛である神にとってこのことがどれほど苦しいことであるか想像することができません。

もしも私たちが自分に正直ならば私たちがいかに不忠実であるかが分かるでしょう。不誠実であり偽善者であり二枚舌です。なんと良い意向が裏切られたことでしょうか。約束がどれだけ守られなかったか。どれだけの決意が消え去ったことでしょうか。

しかし主は私たちの心を私たちよりもよくご存知です。私達がいかに弱く変わりやすいか、いかに何度も転び、何度も悪から立ち上がらなければならないか、ある傷を治すのがいかに難しいかをご存知です。

そのために彼は私たちを癒してくださったのです。私達の不忠実さをご自分にまとい、私たちの裏切りを取り除いてくださったのです。彼は私たちが到達できないような恐れで勇気を砕かれるのではなく、私たちは十字架につけられたイエスに目を上げ、彼の抱擁を受け、そして言うことができます。これが私の不忠実さです。イエスはそれをとってくださいました。あなたは私に腕を広げ、あなたの愛で私を包み込み、私を支え続けます...さあ私は進みます！

十字架上で今日の福音ではイエスはただ一つのことを言います。「神よ神よなぜ私を見捨てたのですか。」これは強い言葉です。神という名前を使い、悲痛に「なぜ」を叫びながらイエスは初

めてご自分が打ち捨てられたことを苦しまれたのです。

繰り返しますが、この試練は私たちを救うためになされたのです。私たちが壁にぶつかった時、私たちは一人でないことを思い出すために。イエスは完全に打ち捨てられたのです。私たちが全てに強められるために。彼は私のため、あなたのため、このように

言うためになされたのです。「恐れるな。あなたは一人ではない。いつもあなたと共にいるために私はこの悲しみを味わっているのだ。」このようにして、私たちのもっとも過酷な苦しみの深淵までイエスは降りて、私たちに仕えたのです。

今日私たちはこのパンデミックの悲劇の中でこのような試練が私たちに仕えなければなりません。確かなものがぼろぼろと崩れ落ち、多くの期待していたものが裏切られ、打ち捨てられた思いで心は締め付けられています。イエスが私たち一人一人に言います。勇気を持ちなさい。私の愛に心を開きなさい。あなたを支えている神の慰めを感じてください。

裏切ってはなりません。

打ち捨てておいてはいけません。

私たちは神様のために創造されました。その神を裏切ることはできません。頼りにされていることを放棄するわけにはいきません。

私たちはこの世に神様と他の人を愛するためにいるのです。他の事は過ぎ去り、このことは残ります。今世界中で起こっている試練は私達を真に大切なことを真摯に受け止め、価値のないことに迷うことなく、私たちの人生は仕えなければ何の価値もないということをもう一度見出すように促しています。なぜなら人生は愛によって測られるからです。

この聖週間、家で十字架の前に立ちましょう。ご自分の命を与えるほどまでに私たちに仕える神の前に立ち、仕えるために生きる恵みを願い求めましょう。苦しんで人と連絡を取るようにしましょう。孤独で困っている人をです。私たちに足りないものを考えるだけでなく、私たちができる善を考えましょう。

愛し、祈り、赦し、他の人の面倒を見る。社会においても家庭の中でも。これは十字架の道行きのように見えるかもしれませんが。しかしの奉仕の道は勝利の道です。この道は私たちを救いました。私たちの命を救う道です。

ここで教皇さまは特に若者に思いを馳せました。若者に向けて、

親愛なる友よ、本当のヒーローを見なさい。この頃現れてきている本当のヒーローです。その人たちは名高い人たちではありません。お金も成功もありません。しかし自分を他の人に仕えるために差し出す人達です。あなたがたもあなたの生涯をかけるように呼ばれているのを感じますか。神と人々に人生を捧げるのを恐れてはいけません。そこであなたは勝利を得るでしょう。なぜならば人生とは与え合うことによって受け取る、与えられたものだからです。なぜなら一番大きな喜びは、愛に対して「はい」と言うことだからです。もしも、でも...でなくて、「はい」です。イエスが私たちに対してしてくださったのと同じようにです。

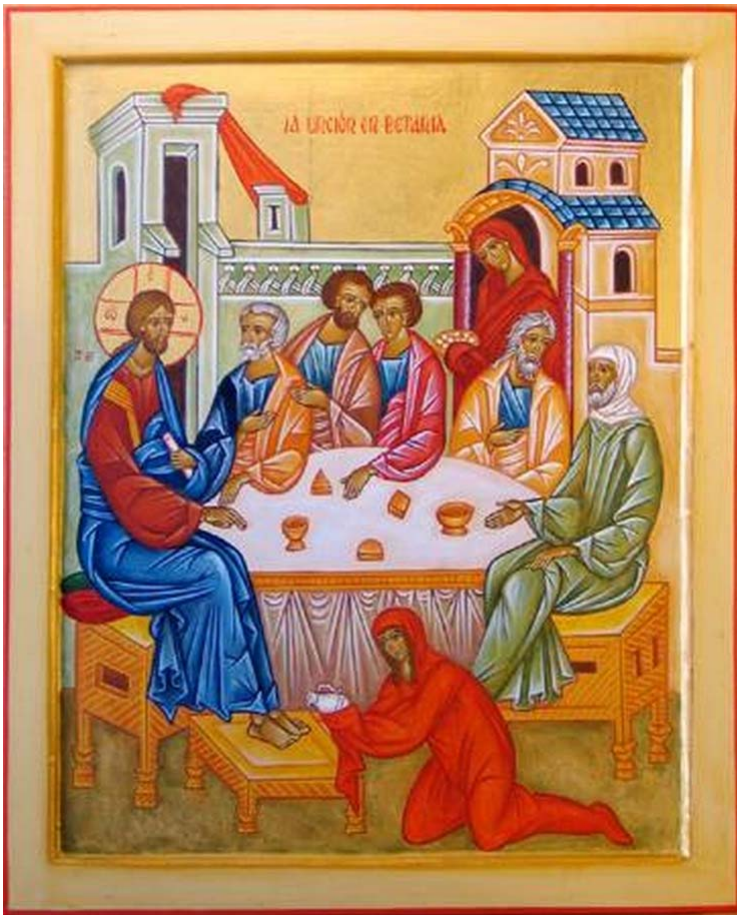
聖月曜日 教皇さまミサ説教 サンタマルタ聖堂

06/04/2020

聖月曜日の朝、囚人のことを思い、牢獄での人口過多がこのパンデミックで悲劇をもたらす危険があると述べ、適切な解決手段を見つけることができるように関係者のために祈りましょうと意向を述べた。

今日の福音でマリアは高価な香水をイエスの足に塗ります。それがイエスを裏切ろうとしているユダの批判を買うことになりました。この香水を売って貧しい人に施すべきだと。

そこで福音史家はユダがこう言ったのは貧しい人のためでなく、彼が盗人だったからだと書いています。金庫係である彼はそこから自分のためにくすめていました。しかしイエスは答えます。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。貧しい人はいつもあなた方と一緒にいるが、私はいつもあなた方と一緒にいる訳ではないからだ。」



聖火曜日 07/04/2020 教皇さまミサ サンタマルタ聖堂
不正な判決を受けた罪なき人のために祈りましょう。

この聖火曜日、教皇はイエスの受けた迫害を思い起こし、迫害と不正な判決に苦しむ人のために祈りましょうと意向を述べました。



ユダの裏切り

集会祈願で詩篇 27 から引用しました。「私の敵の思いのままにさせないでください。暴言を吐く偽りの証人が私に向かって立ち上がりました。」

教皇は無実の迫害を受けた人のために祈るように促しました。「この四旬節、私たちはイエスが受けた迫害を見ました。律法学者がどのように彼に執拗に迫ったか、彼は無実であるのにもかかわらず、激しく裁かれました。今日私はすべての不正に裁かれている人々のために祈ります。」

福音箇所

イザヤ 49 章 1-6,

ヨハネ 13 章 21-33

説教

イザヤの預言では、メシア、贖い主、イスラエルの民の、神の民の預言者について語られています。それは私たち一人ひとりの預言者のことでもあります。要するに、預言は主が、彼の奉仕者をその母の胎内にいる時から選んだことを 2 度に渡って強調しています。

最初から、主の奉仕者は生誕と同時にまたは生まれる前に選ばれました。神の民は生まれる前から選ばれました。私たちの誰もが偶然にこの世に生まれた訳ではありません。誰もが運命があり、自由な運命、神から選ばれた運命があります。私は神の子である、神の奉仕者である運命を持って生まれました。奉仕する仕事、建設する仕事、築く仕事が伴います。母の胎内からです。ヤーヴェの奉仕者イエスです。イエスは死まで仕えました。これは失敗に見えました。しかしこれが仕えるやり方でした。そしてこれが私たちの生涯でしなければならない仕え方であります。仕えるとは自分を差し出すことです。他者へ自分を差し出すことです。仕えるとは、仕えることよりも何か利点を私たちの間で期待することではありません。仕えることは栄光です。キリストの栄光とは自分自身を無にするほどまで、死に至るまで、十字架の死にいたるまで仕えることです。

教皇の祈り

イエスよ、ご聖体の秘跡の中にあなたがいらっしゃることを信じます。私は何よりもあなたを愛します。そして私の魂にあなたがいらしてくださることを望みます。私は今私の心にご聖体をいただきます。どうか少なくとも霊的にいらしてください。あなたがもういらっしゃったかのように私はあなたを抱擁します。あなたに一致します。あなたから離れることのないようにしてください。（聖アルフォンソドリゴリの祈りから）

聖水曜日説教

聖水曜日は「裏切りの水曜日」とも呼ばれています。教会がユダの裏切りを記念としている日です。ユダは主人を裏切りました。

人々を売ることによって思い出すのは、アフリカの奴隷をアメリカに連れてくる商売がすぐに思い出されます。昔のことです。例えば Yezidies の娘たちが、Daech に売られたことです。今日でも人々は売られています。

毎日彼らの兄弟姉妹を売っているユダがいます。職場で搾取しています。彼らの仕事に見合ったちゃんとした賃金を払いません。それとは逆に、商品は何度も高く売ります。

自分たちの心地よさのために、ある者は彼らの両親をもう見ないですむように、確かなところに彼らを入れ、会いに行きません。彼らは売ったのです。このような人のことを語っている諺があります。『この人は母を売る能力がある』。彼は母を売るのです。厄介払いをしたら、彼らは去ります。『ちゃんと面倒見てくださいよ』

今日人間の商売は初めの時のようです。このようです。どうしてでしょう。イエスはだからそのことを言ったのです。彼は主人にお金を与えたのです。イエスは言いました。「神とお金の両方に仕えることは出来ない。」二人の主人。イエスが明らかにしているたった一つのことです。私たち一人ひとりには選ばなければなりません。神に仕えるなら自由に敬うことや奉仕することができるでしょう。お金に仕えるならお金の奴隷になります。

これが選ばれた意見で、多くの方は神とお金に仕えたりします。ですが、これは出来ないのです。つまり彼らはお金に仕えるために神に仕えていると主張しています。これは隠れた搾取者で、社会的には申し分のない人々ですが、机の下で商売をします。人々に対しても同じです。彼らなんかどうでもいいのです。人間の搾取は他の人々を売ることで成り立っています。

彼は弟子として弱かったのです。でもイエスは彼を愛しました。福音は彼がお金が好きだったことを語っています。ラザロのところでもマリアが高価な香料をイエスの足に塗った時、ユダは小言を言いました。ヨハネは言います。「彼がこれを言ったのは貧しい人を愛していたのではなく、泥棒だったから言ったのだ」。お金への愛が彼を常軌から外れさせ、盗ませ、盗むことから裏切るまではたった一步です。

お金を愛し過ぎる人はいつももっと欲しいために裏切るのです。これがその法則です。これは事実です。ユダ青年は良い人で良い意向を持っていましたが、市場に売りに行くほどまでの裏切る者となりました。「彼は祭司長に会いに行き、『彼を直接引き渡したらいくらくれますか』と言いました。」私はこの男は全く気狂いだと思います。

私を惹きつける一つの事はイエスはユダのことをけっして裏切り者とは言いませんでした。彼は裏切られるだろうと言いました。でもユダのことを裏切り者とは言いませんでした。「行け、裏切り者」と決して言いませんでした。彼は「友」と呼び抱擁します。ユダの神秘です。このユダの神秘はどのようなのでしょうか。分かりません。Don Primo Mazzolari が私よりもそのことをもっとよく説明しました。Vezelay の柱頭にイエスがユダの体を抱いている場面があり、それを観想します。ユダはどのように死んだのでしょうか。知りません。イエス強く言います。「人の子を裏切るものは不幸だ。生まれてこないほうがよかった。」

しかし、それはユダが地獄にいるということなのではないでしょうか。分かりませ。柱頭を眺めます。イエスの言葉が聞こえてきます。「友よ」このことは私たちに他の事を考えさせます。これはもっと現実であります。今日よりも現実です。悪魔がユダの中にはいったのです。悪魔がユダをここまで追い詰めたのです。

この話はどのように終わったのでしょうか。悪魔は支払いが悪いのです。悪魔はあなたに全てを約束し、あなたにすべてを見させますが、最後にはあなたを首を吊る絶望へと一人置き去りにします。

ユダの心は動揺し、強欲で苦しめられ、またイエスに対する愛によって苦しめられます。この愛は実現することができなかった愛でした。この暗闇に苦しみながら、祭司長たちの所に赦しを願いに、福音を求めて行きます。「私たちとなんの関係があるのかね。あなたの事でしょう。」悪魔はこのように話し、私たちを絶望に置き去りにします。

この世界に制度化された沢山のユダを考えましょう。人々を搾取しています。そして私たちそれぞれがー誠実さか利益かーを選ぶ時に見える小さなユダを考えましょう。私たちはそのキャパシテに応じて、裏切り、売り、自分の利益で選びます。

私たち一人ひとりがお金や財産の愛に引き寄せられるがままにするのか、将来もたらされる満足を思って引き寄せられるがままにするかの可能性があります。「ユダよ、お前はどこにる?」。私は私たち一人ひとりに質問したいのです。「ユダよ、私の中にいる小さなユダよ、お前はどこにる?」